

合唱と管弦楽のための組曲、「唐津」と「唐津市の歌」・交響詩「まつら」 ～團伊玖磨・外山雄三など～	分野	文化
	◎地図・写真・統計資料など	
<p><b>■合唱と管弦楽のための組曲「唐津」</b></p> <p>唐津市政施行50周年記念として、團伊玖磨氏に作曲、栗原一登氏に作詞を依頼した。</p> <p><b>■唐津市の歌</b></p> <p>唐津市政施行50周年記念として、團伊玖磨氏に作曲、栗原一登氏に作詞を依頼した。 上記「組曲」の中の一曲。1983年に市政施行50周年記念事業の際、初演された。 指揮は作曲者の團伊玖磨氏、唐津レインボー・コーラスによりピアノ伴奏で歌われた。 團伊玖磨氏は、1924年東京生まれ、2001年中国旅行中に客死。</p> <p><b>■交響詩「まつら」</b></p> <p>唐津日本フィルの会が、市民2,400名の募金を元に外山雄三氏に作曲依頼。 1982年3月日本フィルの定期演奏会で初演。唐津くんちの曳山囃子をモチーフにした箇所があり、その部分を曳山保存会が協演し喝采を浴びた。 その後日本フィルにより日本国内だけでなく、ヨーロッパ公演では日本を代表する作品として演奏され、好評を博している。外山雄三氏は1931年東京生まれ。現在も指揮者、作曲家として活躍中。</p>		◎引用・参考文献（出典）
◎エピソード・伝承・うちく など		
<p><b>■交響詩「まつら」初演の際に、作曲家の外山雄三氏から寄せられたメッセージ</b></p> <p>「11月2日（1980年）の夕刻から翌3日の午後までにお目にかかった実にたくさんの素晴らしい方々と、活気に溢れ、誠に華やかでいながら少しも粗雑さが混じっていない祭りを見て、これは新しい作品を作ることに関わってしまうかもしれない、と予感しました。（中略）1960年以来、日本の伝統的な音楽の諸要素を素材にした作品もたくさん書いてきました。しかし、今度の交響詩「まつら」は、潮騒や、松林を渡る風や、いろいろ豊かで少し悲しいところもある祭りを考えただけでも、月並みですが責任重大と緊張しないわけにはいきません。今までの私の経験や技法ではとても描き切れないものを「まつら」はあまりにもたくさん含んでいます（後略）」</p> <p><b>■交響詩「まつら」に寄せる「千円募金」</b></p> <p>一人でも多くの人々に参加してもらうため、もし1万円出そうという申し出があれば、あなたから9人の人に千円ずつの募金を呼びかけてほしいと、多くの賛同者を募った。地元在住者だけでなく、都会へ出て行った人、海外へ移住した人、旅の途上の人など、2,400名からの浄財が寄せられた。「まつら」は市民と作曲家と演奏者の共同作業による所産といえる。また、たまたま初演時が市政50周年と時を同じくしたため、唐津市政施行50周年を記念する公演となった。</p>		◎もっと詳しく知りたい方は 唐津市近代図書館へ お問い合わせください。 ■電話：0955-72-3467 ■ホームページ： <a href="http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html">http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</a>